

国内研修報告書

私は今回、国内研修として女子高生サポートセンターcolabo（コラボ）の夜の街歩きスタディツアーに参加させていただいた。参加したきっかけとしてはゼミの担当である湯浅誠先生の紹介があったからなのだが、理由としては好奇心3割、女子高生の中にも様々な問題を抱えた難民がいるということで勉強のためが7割といった比率であった。女子高生のツアーに参加させていただく前に代表の仁藤夢乃さん著『女子高生の裏社会―「関係性の貧困」に生きる少女たち』（光文社新書）を読んだのだが、本を読んでもどこか他人事のような感じていた。普通の女子高生たちであるといっても、自分とは異なる人たちでどこか別世界の出来事のように思っていて、すごく”距離感”があったように思う。しかし、参加をしてみるうちに”距離感”が徐々に近くなっていき、同じ世界の出来事でしかも、ごく身近にある問題あるということが明確に感じられるようになった。普段はあまり新宿等へは電車の乗換程度で行くことはなかったのだが、今回はちょうどツアー参加1週間前に新宿や秋葉原に友人と遊ぶことがあり行っていた。その時通った場所もあったのだが、1週間前に見た場所と説明を聞きながら見た場所とでは見えている世界がまるで変わっていた。大通りに逆行するようにスカウトや裏の世界の人が立っていた。一見居酒屋の勧誘にも見えるが、居酒屋のチラシなど持ち歩くことはなく女の子の選別をしている。何人も何人も人が立っていて今まで自分が気づいていなかったことが不思議なほどだった。町には制服やコスプレをしてチラシ配りをしている女子高生が2メートルおきぐらいに立っていて通るたびに男の人に配っていた。「JKリフレ」「JKお散歩」「JK撮影会」などテレビで多少見たことはあったが、至るところにそうした店が店舗を出していた。危険ドラッグの店もそうだが、身近なところに危険が潜んでいることを改めて感じさせられた。条例によって18歳未満の子どもたちが深夜の外出が禁止され、補導対象に変わったことで確かに家に帰る子の数は増えたかもしれないが、それは家に帰ることのできる子どもたちだけであって、中には家族関係や暴力、ネグレクトなどで居場所がなく家に帰れない子どもたちいる。補導されても、公的支援や行政の保護にあてはまらない保護未満の子どもたちにはどこにも場所はなく、また同じことの繰り返しとなる。補導されたことによって家庭や学校に連絡がいくことでかえって状況が悪化する場合もある。以前は居場所はカラオケやゲームセンターやネットカフェなどであったが、条例で禁止されたことで子どもたちの居場所がますます失われ、より一層危険な夜の街の路上に放り出されることになってしまった。店のスカウトからしてみればそういった女の子は一目瞭然で、簡単に夜の世界に引き込むことができるようになってしまった。女の子に住むところや食べるものがないなら声をかけてお店やお店が持っている女の子専用の寮へ誘うことができる。女の子を夜の街の恐怖からは解放され一時的に安心する場となるだろう。仕事がないから、お店を紹介する。そうして、女の子が一応、暮らしていける場ができる。女子高生が失っていた居

場所の提供をお店側が提供をしている。しかし、女子高生が失っているものは居場所だけでなく、人と人との関係性も失っている。そういった女の子たちにスカウトや店長、暴力団関係者が優しく声をかけ、悩み相談や時には学習支援まで行うことで、普段大人たちとの関係が薄い子どもたちに信頼関係を持たせ、居心地のいい場所であると思わせていくことで本人たちもそこから出ようとは思わなくなっていく。また、SNSの発達によっていつでも、どこでも、誰とでも繋がれるようになってしまった。個人で援助交際の募集も簡単にかけることもできるし、特定のワードで検索をかければ居場所がなくて困っている女の子たちが誰なのか簡単にわかる状況である。そうしたことを知っている出会い目的の男性と困っている女の子と連絡をとることも容易になってしまった。貧困状態にあり、生活が困窮している貧困層、経済的困窮家庭の子ではないが、家庭や学校での関係性や健康、精神状態に不安や特別な事情を抱えている不安定層の2つの層が主にこういった仕事と関係性を持ちやすいと思われがちだが、ネット社会の発展によって、女の子の求人サイトも有名となり、あこがれを抱いた女の子たちが夜の世界に入りやすくなっていった。経済的にも家庭や学校における関係性的にも困窮しておらず、特別な事情も抱えていない生活安定層とよばれる女の子たちはますます家庭ではこのような仕事をしていることに気づくことは難しくなってくる。求人情報サイトには女の子にとって魅力的なことばかりがならんでいる。高時給、日払い制、誰でも働けることや芸能事務所を運営していること安心安全であることなどを売りにしていることが多い。もちろん、内容は嘘ばかりで違法な営業を行っているお店もある。しかし、女の子からしたらかわいらしいサイトで利用者数も多いとなれば安心してサイト登録するようになる。女の子の中には中卒や高校中退の子もいる。そういった子どもたちがアルバイトを始めようと仕事を探しても条件の合う仕事や条件があったとしても、面接で落とされることだって多いだろう。そうした子がJK産業のお店に面接に行けば簡単に合格してしまう。何度も落ちることを経験した女の子からしたしすごく嬉しい経験となるだろう。中には地方に住む子もいて、地方では仕事がないため電車で遠くから来て上京して働くという子もいるだろう。実際にツアーに参加をして、声をかけた女の子は2～3時間かけて東京に来ている地方の高校中退の子であった。私と話を話して感じた印象は本やテレビで見たり、聞いたりした時に感じた女の子たちの印象とはかなり違ったものであったことに衝撃を受けた。本当に普通にどこにでもいるような女の子でノリのいい、楽しい子であった。この時、自分が感じていたこの問題との距離感がかけ離れたものなんかじゃなく、身近なものであるんだと実感した。

夜の街歩きスタディツアーに参加して思ったのは、JK産業によって用意された見せかけのセーフティネットではなく、行政や民間による困窮状態にある子どもたちを救う真のセーフティネットを作る必要がある。そして、学校や家庭で子どもたちとの関係性を作り、維持していく。困っている子どもたちに声をかけることはスカウト以外にもできるはずだ。子どもにも子どもの中で悩み事やうまくはいかないこと大人と同様にある。身近な大人たちがそれを聞いて手を差し伸べるだけで居場所がなく、関係性の貧困に陥る子どもたちの

数は必ず減るはずである。夜の世界に行かないようにストッパーの役割をするのも周りにいる大人たちの役目となるはずだ。まず、子どもたちが抱える問題に大人たちが関心を持ち、きちんとした知識を持つ必要がある。自分の子どもは大丈夫、自分の生徒は大丈夫という考えでは見えるものも見えなくなってしまう。自分たちとは関係のない出来事であると思いついてしまふから見えるはずのものが見えなくなってしまう。知ることによって今まで見えていなかったものが見えるようになる。恥ずかしながら自分自身が見えていなかったのだが、今回の体験を通して少し見えるようになったのではと思う。

J Kが抱える問題だけでなく、多くのことを勉強し、同じように見えていない問題を見えるようにしていきたい。そして、解決策を具体的に見出せるような大人になりたい。将来子どもたちが健全な社会の中で成長できるようになってほしいと思う。